

(別記様式)

会 議 の 概 要

会議の名称	令和2年度第1回木津川市環境審議会	
開催日時	令和2年8月18日(火) 10時00分～12時00分	
開催場所	木津川市役所5階 全員協議会室	
出席者 出席：■ 欠席：□	委員 (名簿順)	■橋本委員(会長) ■尾崎委員(副会長) ■大西委員 ■北委員 ■木原委員 ■立花委員 □渡部委員 ■内村委員 ■江見委員
	オブザーバー	■遠藤オブザーバー ■森岡オブザーバー(岡田代理)
	事務局	市民部：山本部長 まち美化推進課：福田課長補佐、山上主任、西澤会計年度 任用職員
議題	(1) 今回の審議事項等について (2) 市の現状と課題について (3) 計画のアウトラインについて (4) 団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートについて	
公開・非公開の別	公開	非公開の理由：－
傍聴人の数	0名	
会議資料	資料 木津川市環境審議会委員名簿 資料① 第2次木津川市環境基本計画アウトライン 資料② 市の概要・現況等の資料データ 資料③ 団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートにおける質問票(案) 資料④ 骨子案に関する意見照会の結果とりまとめ 資料⑤ 第2次木津川市環境基本計画策定スケジュール 参考資料 ミニセミナー用配布資料	
審議経過	1. 開 会 2. ミニセミナー ◎：議事・進行 ○：質問・意見 ⇒：説明・回答 ◎木原委員を講師とした、SDGsと地球温暖化に関するミニセミナーを行った。 参考資料 ミニセミナー用配布資料 ○CO2削減の取組みの一つに太陽光発電の利用があるが、太陽光パネ	

審議経過

- ◎：議事・進行
- ：質問・意見
- ⇒：説明・回答

ルは維持管理や廃棄処分が困難であり、パネルからの電磁波も健康に影響がないか心配である。そのため、太陽光発電よりガスを利用したほうが良いと考える。

⇒（木原委員）ガス利用が CO2 排出につながることから、ここ数年で、ガスを使わない社会づくりを目指す流れになっており、ガスの代わりに電気を利用するしかない状況である。

太陽光パネルの廃棄処分については、製造時にパネルのリサイクルをあまり想定されておらず、パネルをはがす作業が大変であると聞いている。しかし、リサイクルのための技術は進んでおり、かなりの割合で可能になってきている。まだ太陽光パネルを大量にリサイクルしなければならぬ段階には及んではないが、製造から廃棄・リサイクルも含めた体制を整える必要があると考える。

また電磁波については専門でないため詳しいことは分からないが、一定の距離があれば特に影響はないと聞いている。

○リニア中央新幹線の消費電力に原子力発電 1 基分が必要であるとされている。しかし、新型コロナウイルスの影響により日本経済が落ち込むなか、原子力発電に頼らない方向に変わるべきであり、さらに新型コロナウイルス感染予防のための移動の制限や、病院の診察のオンライン化なども進んでいることから、リニア中央新幹線のルートは東京～名古屋間で十分であり、大阪まで誘致する必要はないと考える。

⇒（木原委員）リニア中央新幹線については専門外のためお答えできないが、これだけテレワークが発達してくると、東京に住む、もしくは東京での会議に出る等の必要がなくなる可能性がでてくるなど、新しい社会像が描かれつつあると感じている。

3. 議 事

◎橋本会長から、名簿順により会議記録署名委員として北委員が指名された。

(1) 今回の審議事項について

◎橋本会長から今回の審議事項について、議事(2)～(4)の3点がある旨説明を行った。

(2) 市の現状と課題について

審議経過

◎：議事・進行

○：質問・意見

⇒：説明・回答

◎事務局から現行計画の概要と進捗状況について説明を受け、審議を行った。

資料② 市の概要・現況等の資料データ

○平成25年9月の台風による水害で、床下浸水になった地域があったが、市としてどのような水害対策をとっているのか。春日部市では、水害対策として地下に治水施設があり、水が東京湾に流れる仕組みができています。それに比べて市の対策は遅れていないか。

⇒全国的にも集中豪雨による水害が見受けられ、当市についても例外ではなく、内水排除対策が課題となっております。山林の保水能力の低下が、山から一気に水が流出することを招くことなどから、持続可能なまちづくりのために山林のしっかりとした管理が重要であると考えております。

また、前回の審議会においても、環境基本計画に防災の視点も設けるべきという意見もあったことから、こうした内水排除対策等についても反映したいと考えております。

○環境の森センター・きづがわは精華町との共同のごみ焼却施設であるが、市のごみの量はどれくらい減ってきているのか。昔と違い、今はものが豊富な時代である反面、ものを大事にしておらず、ごみの量が増えることにつながっていると思われる。

⇒おっしゃる通り、ごみの減量化の取組みには、単にごみを減らすことだけでなく、もったいないプランの大きなテーマでもある、環境に配慮したライフスタイルに変えることが重要と考えております。このライフスタイルの変化から、ものを大切にする意識へとつながり、結果的にごみを減っていく流れが必要であると考えております。

家庭系可燃ごみ有料化前後を比べますと、精華町より木津川市のほうがより大きくごみ排出量原単位が減少しており、市民の意識が変わってきていると思われまます。また、コロナの影響により4月～6月のあいだ、各家庭でいわゆる断捨離で家の中のものを整理する方が増えたため、精華町・木津川市ともに非常に多くの可燃ごみが出たところではありますが、その後は木津川市においては比較的抑えられてきており、こうした点にも、ごみ有料化の効果が出てきていると思われまます。

○説明があったとおり木津北地区は豊かな自然に恵まれたところであるが、URから譲り受けた木津北地区の土地152haのうち、環境の森

審議経過

- ◎：議事・進行
- ：質問・意見
- ⇒：説明・回答

センター・きづがわの敷地として購入した面積は。

⇒面積は約 5ha でございます。また当センターについては名前の由来のとおり、豊かな自然に囲まれたなかで、環境を大切にしながらごみ処理を行う施設であり、環境施策を進める中でも重要な施設という位置づけとしております。

○木津北地区の土地 152ha のうち残りの 147ha については、市として、または京都府における学研都市として、どういう位置づけを考えているのか。

⇒資料 2-1 1 で説明しましたとおり、木津北地区については「生物多様性木津川市地域連携保全活動計画」により再生プランを策定しており、豊かな自然や生物多様性が保たれている状態であり、里山保全を中心に施策を進めているところでございます。

○狭山市では、豊かな自然に恵まれた立地を生かして動物園などを造るなど、人を呼び込む取組みが進んでいる。木津北地区を今後どうしていくか考える上で、参考になると思われる。

⇒狭山市にはジブリの「トトロ」の原作となった森があるなど、地域資源を生かしたまちづくりが進められていると聞いております。木津北地区についても豊かな自然を大切にしながら、これをどういう形で保全していくかが今後の課題であると考えております。

○本計画は地球温暖化対策に係る地方公共団体実行計画区域政策編を含めた形で記載するのか。

⇒環境基本計画は全体的な方向性や大きな流れを定めるものである上に、環境施策に係る他の個別計画もあることから、地方公共団体実行計画区域政策編は本計画に含める予定はありません。また現状として区域政策編を策定できておらず、策定する必要があるかどうか、今後の市の環境施策の課題として検討したいと考えております。

○資料 2-1 2 の市内河川の水質について、このグラフの縦軸の単位はなにか。

⇒BOD の数値を表したものであり、単位を含めて記載を修正させていただきます。河川の水質については、市民からの関心も高いため、当計画の本編または資料編に掲載したいと考えております。

○資料 2-1 5 の空家の状況について、木津川市の平成 27 年度の調

審議経過

◎：議事・進行

○：質問・意見

⇒：説明・回答

査結果が記載されているが、空家率はどれくらいになるのか。

⇒手元に資料がないため、また改めて報告させていただきます。

なお、市内の状況をみますと、城山台をはじめ木津南地区などの大規模開発があったため、従来の旧市街地における空家率に比べると、市全体の空家率は低くなっております。そのため、空家対策においては、空家率よりも、空家の数の実態をみながら進めていくことが必要と考えております。

また、空家については都市計画課が主管課となっておりますが、環境施策の観点から申し上げますと、空家対策は周辺地域の生活環境を保つために必要な取組みであることから、環境基本計画においてもその旨を記載する必要があると考えております。

(3) 計画のアウトラインについて

◎事務局から計画のアウトライン及び骨子案に関する意見照会の結果とりまとめについて説明を受けた。

資料① 第2次木津川市環境基本計画アウトライン

資料④ 骨子案に関する意見照会の結果とりまとめ

○資料④の「第1章1. 計画の背景」の意見④で、「地球温暖化に関しては異論を唱える研究者も多い」とあるが、そういった事実はないので否定させていただく。

また、地球温暖化が私たちのまちの気候変動にも大きく影響している点について、根拠となるデータもあるため、この観点で本計画の策定が進められると良い。

「第2章1. まちの将来像」の意見で、「『脱炭素で』は無理につける必要はないのではないかとあり、納得できるが、一方で、産業界も含めて脱炭素の社会づくりが進められていることから、子どもたちが社会に出ていくときに共通の用語として身に付けておくことができれば良い。そのため、計画上に大きく取り上げる必要はないが、用語として使っておくほうが子どもたちにとっては良い。

⇒資料④で各委員から様々な意見等をいただきましたが、これらに対し事務局からなにか返答等をさせていただく、というよりは、こういう意見等があったということを皆様と共通認識として持ちつつ、本計画の策定に活用することを目的としております。

地球温暖化についても様々な見解があるなかで、審議会ですらこうした議論をしていただいた上で、事務局として受け取らせていただきたいと考えております。

○今回提供されたアウトラインはまだ目次の段階であり、骨子案に関する意見のとりまとめのみが行われたところであるが、具体的な計画のテキストを検討しないまま、スケジュール上は次回審議会で中間案まで作成し、その後にパブリックコメント実施となっている。スケジュールは大丈夫なのか。

⇒本来なら今回はアウトラインではなく素案のようなものをお示すべきところではありますが、先ほどご説明しましたとおり骨子案につきましては大変多くのご意見をいただいたこともあり、この骨子案から計画を作成していくより、一度、章立てから見直して作っていくほうがよいと考えましたので、こうしたアウトラインを作らせていただきました。

今後の進め方につきましては、今年度末までに計画策定予定としておりますが、コロナの影響で審議の時間が限られている状況です。しかし、非常に大事な計画であると認識をしておりますので、じっくりと計画の策定を進めたいと思っております。

次回審議会でもう少し肉付けをして言葉を入れ込んだ形の計画をお示ししたいと考えておりますが、それをもってさらに様々なご意見が出てきましたら、審議会の回数を増やすことや、策定期間が翌年度にまたがることもやむをえないと考えます。スケジュールが多少流動的になりますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

○今回意見のとりまとめが示されているが、最終的にどういう方針でまとめていくのか案が示されないとなかなか議論しにくいと思われる。

また、今回もいろんな意見が出ているなか、次回に肉付け案を示されたとしても、これに対してまた意見が出てくると思われるが、それで中間案とするのは難しいのではないかと。

⇒パブリックコメントでお示しするのは中間案となりますが、中間案としながらもほぼ最終案に近い形のものになってまいります。おっしゃるとおり、中途半端な状態で中間案としてまとめることはできませんし、やはり中身や文言をよく確認して進めるのが重要だと考えております。

そのため、次の議題に挙げております団体・事業者あてヒアリング等の結果等も踏まえた上で、次回審議会までにお示しできるように時間の調整等がございましたら、また皆様からご意見をいただきながら中間案として整理したいと考えております。タイトなスケジュールになりますがご協力いただきますようお願いいたします。

○団体・事業者あてヒアリングは、計画の骨子案を示した上で行うのか。

⇒のちほど団体・事業者あてヒアリング及び小学生アンケートの内容についてはご説明させていただきますが、前回の審議会でこどもの環境に対する意識も大事にすべきというご意見をいただいたこともあり、計画の骨子案を示した上でのアンケートではなく、まずは小学生のお子さんが環境に対してどんな意識を持っておられるのか、また事業者等がどんな活動をしておられるのかなど、現状を把握するためのアンケートという位置づけで考えております。

○ヒアリングとあるので合意形成の一環として行うのかと思っていたが、団体・事業者について基本的な情報を収集するということか。

⇒基本的に、まずは団体・事業者アンケートを行いまして、環境施策に取り組んでおられる団体等がありましたら、もしくはアンケートの回答内容の解釈に分かりづらい点があるなどの場合は、個別にヒアリングを行いたいと考えております。

(4) 団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートについて

◎事務局から団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートについて説明を受けた。

資料③ 団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートにおける質問票(案)

○団体・事業者のアンケート送付団体リストをみるとたくさんあるのですが、京都府地球温暖化防止活動推進員は個人で活動をしておられるので送付対象外となるかもしれないが、市内にも10数人おられるので、ぜひ対象にしてほしい。

○小学生アンケートは何年生を対象としているのか。

⇒遠藤オブザーバーとも相談をさせていただいたところ、3年生で生き物、5年生で産業、6年生で包括的な学習という流れで学んでこられたなかで、このアンケートでは市のまちづくりや将来像についてお聞きするので、6年生にするのが良いと考えております。

○計画の中身について事業者と調整するプロセスは必要ないのか。

	<p>○市内事業者と計画の中身を事前に調整する必要はないと考える。木津川市にお住いの方々のための環境施策であるということが一番重要であるため、事業者がこれに対し協力できることを探したり、実施している環境の取組を紹介したり、また市からは事業者に対し取り組みへの協力を依頼する、という形が良いと思う。</p> <p>(5) その他について</p> <p>◎事務局から次の事項について説明を受けた。</p> <p>(次回審議会の日程について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会は11月または12月に開催予定です。近日中に、事務局から日程調整表を各委員に送付いたします。 <p>(次回審議会の資料について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題(4) 団体・事業者ヒアリング及び小学生アンケートについて、ご意見等があれば8月末までに事務局あてにご提出ください。 <p>○可能なら次回審議会の前に、計画のテキストを示していただき、委員あて意見照会をした上で、これに対する事務局の対応方針を示していただけたらと思う。当日いきなりテキストを提示されてから議論し中間取りまとめまでを行うのは難しいと思う。</p> <p>4. 閉 会</p>
そ の 他	特になし。